

埼玉県 退職校長会 会報

題字・新井俊一

第187号

令和8年4月

「組織」について思うこと

埼玉県退職校長会副会長 笠原 幸夫



温かな関係がありました。組織が真に力を発揮するとき、それは制度や形だけでなく、そこに集う人々の思いが一つになる時だったと思います。

少子高齢化や社会の急速な変化の中で、私たちの周囲にある多くの組織もまた、その在り方を問い直される時代です。組織は共通の目的をもち、人が役割分担しながら協力して働く集まりです。

学校では、校長を中心に教職員が力を合わせ、子どもたちの成長という共通の目標に向かって日々努力してきました。そこには役割分担や規律がある一方で、互いを思いやり、支え合う

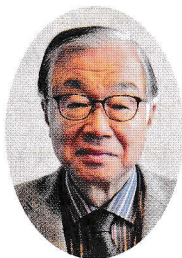
私事ですが、わずか145世帯の小さい町会の町会長を務めています。いろいろな地域活動に関わる中で、組織の大切さを改めて実感しています。ご存じの通り、町会の目的は、防災・防犯、環境美化、高齢者・子どもの見守り、祭りや交流行事、行政との連携などです。地域をより良くするために①目的が明確②役割がはっきりしている③情報がよく伝わる④信頼関係がある⑤変化に対応できる

1	巻頭言
2	理事会報告
3	生きるとは何か
10	総会案内
11	一人一年後の働き方調査
16	役職一年後の働き方調査
18	長寿会・物故会
19	情報文化
20	

など、組織力の向上に心掛けています。立場や年齢の異なる人々が協力し、知恵を出し合うことで、新しい力が生まれてきています。さて、退職校長会もまた、同じ志を持つ仲間が集

三足のわらじ

埼玉葛支部長 橋本 久雄



で述べておられるように、かりそめにも校長職をやった者として、出来ませんやれませんが申し開きが出来ません。

「橋本さん、退職校長会の幹事やってくれないかい」卒園式の帰り際、故小林正男先生からの一声が、退職校長会にお世話になるきっかけでした。

前北埼玉支部長の富田政博先生も令和7年4月の会報

う大切な組織です。会合で顔を合わせ、近況を語り合うひとときには、不思議と元気をもらえるものです。長年教育に携わってきた私たちの経験は、きつと地域や社会の中で生かされていきます。これから会員の皆様との絆を大切に、学び合い、語り合い、心豊かな組織として歩んでいきたいものです。

ているのもとても苦痛なのですが、頼まれた以上はやるしかないの思いでペンを進めています。

さて、そうこうするうち退職後、20年が経とうとしています。幼稚園長の任期（3年）が終わる頃、人権擁護委員への就任の話があり、これは現在も続いて、いや続けさせられています。

令和2年、これも地元の先輩校長である故N先生の仲介で学童保育運営協議会事務局へ勤務することに。前述の①②に加え、職員研修や職員会議も加わりました。職員会議は、オンライン会議ですので、自宅でパソコンの前でOKです。

色々駄文を綴ってきましたが、元校長としての矜持を唯一持ち続けられるのは同じ職種の経験者の集う会「退職校長会」のみです。幸か不幸か支部長就任と同時に今年度の定期総会の担当に。6月5日、越谷市でお待ちしております。

が、①話すこと②書くことはとても苦手です。今、こうして原稿を書い